

低温寡照条件下における水稻の収量、品質、食味に及ぼす苗質の影響							
【要約】低温寡照条件下においては、<u>苗質</u>の違いによる<u>収量</u>、<u>外観品質</u>および<u>食味</u>の差が明確に認められ、稚苗よりも葉令の進んだ<u>中苗</u>を用いることにより、作柄安定が図られるとともに食味の低下を防止することができる。							
豊前分場・普通作物・野菜研究室					連絡先	09302-3-0163	
部会名	農 産	専門	栽 培	対象	稲類	分類	指導

【背景・ねらい】

平成5年の低温寡照条件下において、水稻の苗質の違いが生育、収量、外観品質および食味に及ぼした影響について明らかにし、今後の異常気象対策の基礎資料とする。

【成果の内容・特徴】

- ①低温寡照条件下においては、苗質の違いによる収量、外観品質および食味関連成分の差が明確に認められ、稚苗よりも葉令の進んだ中苗を用いることにより、作柄安定が図られるとともに、食味の低下を防止することができる。
- ②中苗は稚苗に比べて、穂揃いが良く、千粒重、登熟歩合が向上して、収量は3%増加し、外観品質も良好となる（表1、2）。
- ③中苗はタンパク質、アミロース含有率は低く、最高粘度は高く、ブレークダウンは大きくなって、食味は良好となる（表2）。

【成果の活用面・留意点】

農業災害技術対策資料に登載し、異常気象時における良質米安定生産技術として活用する。

[具体的データ]

表1 苗質と生育、収量、収量構成要素 (平成5年)

品 種	苗質	出穂期	成熟期	穂揃い 日 数	m ² 当り 粗 数	千粒重	登熟 歩合	a 当り 玄米重	同左 比率	肩米重 歩 合
		月 日	月 日	日	×100個	g	%	kg	%	%
ミナモト	中苗	8.22	9.28	1	255	20.6	81.5	41.1	103	14.1
	稚苗	8.24	10. 2	4	257	20.3	78.3	39.9	100	14.3
日本晴	中苗	8.25	10. 8	2	224	22.8	97.0	50.8	103	2.3
	稚苗	8.27	10.11	5	241	21.2	94.1	49.1	100	4.7

表2 苗質と品質、理化学的特性、食味 (平成5年)

品 種	苗質	登熟期間中の 平均気温	検 査 等 級	たんぱく質 含有率	アミロース 含有率	最 高 粘 度	ブレイク ダウソ	食味総合 評 価
		℃		%	%	B.U.	B.U.	
ミナモト	中苗	23.0	1 上	7.6	19.8	258	60	0.20
	稚苗	22.5	1上~1中	7.9	20.6	235	20	-0.47
日本晴	中苗	21.8	1 上	8.0	21.1	250	32	-0.70
	稚苗	21.4	1 中	8.3	23.0	228	10	-1.23

注) ①食味総合評価の基準米は、稚苗コシヒカリ。

②最高粘度、ブレイクダウンの数値は大きい値ほど良食味を示す。

[その他]

研究課題名：水稻・麦・大豆作況

予 算 区 分：経常

研 究 期 間：平成5年度 (平成5年)

研究担当者：松江勇次

発表論文等：平成5年度豊前分場・夏作試験成績概要書